



## 「こんにちは 市長です」

3月10日号

夜遅く、塾の前に車が列をつくる。これは受験期特有な景色である。昔にはなかった。「行きたいとこ？どこってないから太高（たこう）だね」「うちは工場をやっているから工業だな」「長男だし農学校行って後継ぎやるよ」。この時期になれば子どもは子どもで気を利かせる。昔は子ども心に「後継ぎ」ということを結構意識していた。家庭の事情に合わせてうまい具合に進路は決まっていたのである。

私は太高（たこう）に行った。何かを意識して学校を選んだわけではなく、自然の流れで結果としてそうなった。入学して変わったことといえば見知らぬ者が交じってきたことくらい。賢そうな者そうでもない者、スポーツが得意不得意ごちゃ混ぜであった。将来、どんな仕事をしたいのか未来がまだ描けていない者が集まっているのが太高（たこう）であった。念のため言うが「たこう」時代であって「たたか」ではなかった頃である。「たたか」は偏差値の高い今の太高である。話はそれだが、3年になって初めて進路別にクラス分けをする。就職希望が2クラス、文系進学が2クラスそして理系進学が2クラスである。あの頃はどの進路を選ぼうとも同級生はみんな仲が良かった。塾も予備校もない。参考書を買ってきて答えを見ながら受験勉強である。担任の先生は「国立？この成績では無理だな」「私立ならうまく推薦書いとくよ」。うまく書いてもらったおかげか、何とか大学に入ることができた。それで間に合ったのである。

塾に行かなければ市立太田中に受からないらしい。そんなになるとは考えてもなかった。一定の成績であれば抽選もいいのでは？小学生が塾で入学テクニックを教わるというのはどんなものか。「たこう」の時代を懐かしく思う。